

あとがき

今年もはや暮になつた。早いものである。来年は4年に1度の総会に当る。「脳と神経」も誌齢7年をむかえることになる。隔月刊の雑誌は、月刊誌にくらべていろいろの点で不利なので、月刊への歩みを進めることになつた。それだけこの雑誌が充実してきたのである。

雑誌だけの先ばしつた歩みというのは考えられない。何よりもこの雑誌が如実にあらわしている、脳と神経に関する学問領域の進歩を思わなければならない。この領域が進歩し開拓されればされる程「脳と神経」は大手をふつて1人だちが出来るようになる。

「脳神経領域」が廃刊になつたので、「脳と神経」がこの領域における唯一の雑誌となつた。その意味でも、この雑誌に課せられた使命は重大である。明年は飛躍の年である。着実に1歩1歩、この学問の領域における道標をうちたててゆくことにする。

本年は Dr. Howard C. Naffziger の生誕70年記念号を発行し、海外にも多大の反響を呼んだ。寄稿された William P. Van Wagenen をはじめ Howard L. Steinbach, Paul C. Bucy から、雑誌の出来ばえについての讃辞が寄せられた。この雑誌がインターナショナルなひろがりを持つ上に寄与した役割は、少からぬものがあつた。今後も折を見て有意義な企画を進めてゆきたい。

上述のような特集とは別個に、時にはトピック・テーマをとらえての特集も行つてゆきたいと思う。

Wartenberg 著、佐野博士訳の「反射の検査」に次いでこの領域で注目される出版物に中脩三教授編の「神経化学」がある。開拓的業績であり、この本の出現は外国においても注目されたようである。日本の研究の現段階の豊かさを示すものであつた。シリーズもので「脳・神経新書」の発刊も企画されている。御期待を乞う。(H)

—— 出版部だより ——

前号に草間助教授の批評を仰いだ「神経化学」(2,000円)が確実なうれゆきをみせています。ユニークな特色は海外に反響があり、細い内容迄解らないが、題名等の訳文からみても興味もたれる旨の評判が取引先の出版社からありました。

脳神経領域では関心の高い割にみるべき成果がありませんが、やはり今日そうした書籍が必要な段階になつたと思います。清新の氣を導くシリーズを企画しています。「脳・神経新書」とでもいうことになるでしょうが、ユニークなジャンルをひらきたいと思つています。御後援下さい。(A)

—— 洋書部だより ——

Reichardt: Allgemeine und Spezielle Psychiatrie, 1954 (Karger, Basel) ¥ 7380.—

700頁に及ぶライヒアルト教授のこの「Lehrbuch」は、精神病学のあらゆる面が余すことなく画かれていると云えよう。時に注目に値するのは、最近の問題たる脳波の測定による治療法や、小児精神病学の新分野に迄も、問題が追求されていることである。この書は彼地でも、学生の高級入門書として、又研究室用として好評を博したと聞いているので、是非一読をおすすめする次第である。

Penfield & Jasper: Epilepsy and the Functional Anatomy of the Human Brain, 1954 (Little, Brown Boston) ¥ 6400.—

モントリオールの神経学研究科長の Penfield 教授の神経外科法としての名声はすでに高いが、此の書は、教授が Jasper 博士との十五年間の研究の結果をまとめあげたものである。この書にもられた、基礎的並びに臨床的なデータは、必ずや、脳神経学界に大きな影響をもたらすものであろう。Jasper 博士は、つとに神経病理学者として名高いが、特に脳の電氣的活動の観察に専念し、脳波の研究に於ては、此の領域の先駆者である。脳の機能及び生理についての Penfield 教授と Jasper 博士の共同研究の成果は新たな面を開拓し、全く独創的であり外科的及び内科的治療法に示唆を与えるところが多い。

脳と神経 第6巻 第6号

昭和29年11月1日発行

編集兼発行人 金 原 元

定 価 1 部 150 圓

本社 東京都文京区本郷6~20

発行所 株式会社 醫學書院

電話小石川(92) 2181 2182 2183 2184 2185 2186
東京都本郷局私書函第5號 振替口座東京 96693

分 室 大阪出張所
東京都文京区駒込林町 172 大阪市北區中之島常安町27
電話駒込(82) 0714 電話土佐堀(44) 5502

學術圖書印刷・中村製本

同一書籍雑誌10部につき1部贈呈
医学書院の発行書籍雑誌は10部御註文の場合は11部、20部御註文の場合は22部を納品致します。何卒この制度を御利用下さい。

(担当) 石川・三枝